

会派会長： 中 根 勝 美 印

## 政務調査研究視察 報告書

報告者：梅 村 順 一

視 察 日	平成20年6月26日（木）・27日（金）	
視 察 先	福岡県豊前市と福岡市	
視 察 内 容	「障害者地域生活支援センターの取り組み」と「水道水源涵養整備計画」	
視 察 者	清水勇、杉浦立美、安形光征、深瀬 稔、梅村順一 計5名	
福岡県豊前市	<p>＜障害者生活支援としてのBDF製造事業＞</p> <p><b>1 豊前市の概要</b> 人口：28343人 世帯数：11360世帯 面積：111km<sup>2</sup>、歳出：108億、財政力指数：0.49、 福岡県東南部、周坊灘に面する。気候温暖で、大災害もなく豊前国の中枢をなす。宇島港は、筑豊の石炭集積地として賑わった。経済面では北九州市、生活面では、大分県中津市が生活圏。3.8万人から3万人を割り込む人口減少が課題。</p> <p><b>2 推進事業の概要</b> センターでは、4年前より古紙回収と資源活用に取り組んできた。豊前市内52の企業や地域が参加したシステムを確立。同時に地域通貨となる『ひまわりシール』の運用を開始し、誰でもが参加できるシール事業が開設。次に学校給食や一般家庭、商業者から出される廃食油を活用したバイオディーゼル燃料を精製し、市の巡回バスに利用しようとする事業。</p> <p><b>3 事業の特徴</b> 障害者就労支援センターとして単独事業化して、障害者の地域企業への就職の支援を開始。抗菌消臭剤の販売に始まり、古紙回収から廃棄食用油の回収と燃料化が実施された。この事業自体は、営利目的でなく豊前市の環境問題に、積極的に取り組むことを目的としている。また、障害者の就労支援事業となり、従事者が誇りを持って就労していることが大きな特徴。</p> <p><b>4 BDF燃料の活用</b> 廃棄食用油を無料で受け取ると廃棄物処理に関わる為、地域通貨シール代金として教育委員会より購入する。1リットル当たり2円。BDF100リットル作るのに6時間。経費は、人件費を除き1リットル当たり38円。廃食用油の回収が課題となり、BDF製造量は月間1000リットルであり、9万円の月収となる。現状では人件費が出ない状況だ。BDFのみで巡回バスに特定して使用するには、無課税となる。現状の回収量では、バス1台だが、将来は公用車への使用を目指したい。</p>	
豊前市	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>BDF事業は全国でも注目されているが、私たちが注目したのは、障害者の就労支援事業としての活動である。当日は精製作業の休業日であり、担当者からの聞き取りや作業工程を見ることができなかった。センターで行なわれる取り組みは、資源の循環社会の実現を目指し、環境問題を解決しようとする大きな目的を持つという。障害者の就労と生活支援を感じさせない事業であり、「人の心の循環社会」が確立された次元の高い自立支援施策となった。ノーマライゼーションの先駆事業といえる。</p>	



施設にあるBDF製造

## <水道水源涵養整備計画>

福岡県福岡市

**1 福岡市の概要** 人口：140万人、世帯数：63万世帯、面積：340km<sup>2</sup>、歳出：6765億、財政力指数：0.81、中国や朝鮮に近い九州の中核都市。天神・博多駅地区は、九州全体の行政・商業・交通の中心。11年の九州新幹線全線開通をきっかけに、九州・アジアの玄関口にふさわしいまちづくりの一環として、博多駅前周辺整備が進められている。

### 2 福岡市の水源

本市では大正12年に水道事業を開始したが、1級河川はなく、8箇所のダムと近郊河川と企業団からの受水によりまかなう状況。これを補うように海水の淡水化（5万トン/日）を実施。年間給水量は、1億5000万m<sup>3</sup>、一日の平均給水量は、40万m<sup>3</sup>である。

#### (1) 水源林整備の内容と基本方針

自己水源に恵まれない本市では、水の重要さを認識して、森林の働きを再検討した。その結果「緑のダム」と呼ばれる森林の働きに再注目した。その一つである水源涵養機能では、洪水緩和機能、湯水緩和機能、水質浄化機能を有する。生物の多様性保全機能のほか、地球環境保全機能も加わった。昭和53年の大渇水の教訓により水道水源涵養整備計画が始められた。理想的な水源林の概念が示され、具体的な管理方法が示された。森林施業の年間計画が立てられ、60年スパンの施業基準が設定された。竹林の増加を食い止め広葉樹に転換。集水区域の水源林の取得にも乗り出した。水源地域との交流や連携も進められ、水源林ボランティアが活躍している。

#### (2) 事業基金の目的

水道水を将来にわたり、良質の状態 で安定的に確保するとともに、市民に水の大切さや水源地域に対する確認を深めてもらうことが目的。設立は平成9年4月、平成18年までの積立により、14億4300万円を保有。具体的には、水道水1トンにつき1円の基金として、0.5円を市民より、残りの0.5円を行政が負担する。基金の処分には、運営委員会の協議が必要であり、交流事業や水源涵養整備事業が進められる。

#### (3) 事業の概要

福岡市の水道関連の水源に対して、次のような事業を推進。①水源林の整備として、市内ダムの集水域の保全と筑後川の上流域の自治体との連携協力による水源林の整備を進める。②水源地域との交流事業の推進として、市民参加の育林活動や交流事業。③水源林用地の取得。④水源流域の交流活動。



福岡市水道局の説明



政令指定都市である庁舎前で

福岡市

### 【感想・岡崎市への反映】

新岡崎市においては、大きな森林面積を持つこととなり、水源林となる上流域の森林管理が必要となってきた。下流域では、良質な水を安定的に確保するために「水源涵養機能の高い森林」を求めている。上流域での森林の管理不足は、上流域だけの問題ではないといえる。下流域における水に関する問題は、下流域だけで解決できるものではない。お互いの立場や問題を理解しあい、協力していけば、豊かで安全、安心な暮らしが実現できることを岡崎市民も認識することが大切だ。